

自尊感情の高まりや主体性の育成を目指した小中連携

ねがい

〈目的〉

子どもたちがお互いを認め賞賛し合う場面を、行事や学級の中で意図的に増やしたり、校区内全体であいさつ運動を展開したりすることで、自尊感情を高め、主体性を育成します。

つながり

〈内容〉

● 子どもたちを認める場の設定

- ・志度東中学校では、運動会での選手紹介の際に、全員で応援や賞賛する時間をとったり、文化祭で全員の作品やレポートを展示したりしました。学校便りでは、できるだけ多くの生徒の声を掲載し、保護者や地域の方に紹介しています。
- ・小田小学校では人権集会の際に、自分が取り組むめあてを全員が発表しました。その後一人一人が反省を発表し、エンカウンターを用いて、全員が仲良くなるゲームを行いました。
- ・鴨部小学校では、「ありがとう」「うれしかったよ」といった友だちのよいところをクローバーカードに書き込んで教室に掲示し、それを昼の校内放送で紹介して全校生に広めるようにしています。
- ・中央小学校では、朝の活動の時間を利用して、異学年交流によるふれあい活動やリサイクル活動、なかよし集会でフリーマーケットなどを行い、一人一人に活動への充実感を味わわせることで、自己有用感や自尊感情を高めています。



【人権集会 (小田小)】



【クローバーカード (鴨部小)】



【リサイクル活動 (中央小)】

● 校区全体で取り組む朝のあいさつ運動

生徒会や児童会の委員会、学校によっては保護者や教職員が中心となって、朝のあいさつ運動を行っています。校内に「おはようございます」と元気のよい声があふれるとともに、いつもより早く登校し自分から声をかけることが、運動のない日の積極的なあいさつやお互いの声かけにもつながっています。



【あいさつ運動 (志度東中)】

高まり

〈成果〉

あいさつ運動や、子どもを認める機会を増やしていくことで、子どもどうしが声をかけあう場面が増えてきました。お互いを認め合い、気遣う雰囲気が各学校でできつつあります。今後、学習や生活習慣の確立に向けて、小中学校間での取り組みの共有化をさらに進めたいと考えています。